

「こどもまんなか」社会の元年を迎えて



新年明けましておめでとうございます。皆さま方におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は多くの患者さんをご紹介いただき、誠にありがとうございました。また、小児期発症慢性疾患を有する当センターの成人患者さんに対して最適な移行期医療の提供にもご協力いただきましたことを深く感謝申し上げます。

今年「こどもまんなか」社会の元年であります。2018年の「成育基本法」、2021年の「こども政策の新たな推進体制に関する基本方針」（閣議決定）に基づき、2022年の第208回通常国会でこども家庭庁設置法案が成立しました。これに基づき本年4月に「こども家庭庁」が創設され、子どもの視点に立ち、子どもの利益を第一に考える「こどもまんなか」社会の大きな一歩として期待されております。その準備室のホームページを閲覧いたしますと 少子化対策、子どもの貧困、虐待、いじめ、ひとり親支援や保育サポートなどの子ども・若者を取り巻くさまざまな課題が取り上げられています。日本小児科学会からも会長名で18項目の医療に関する要望書が提出されました。この中には学童期思春期まで切れ目のない健診制度、新生児マスキングの拡大、子どもの事故(傷害) 予防のための包括的な体制構築、等の政策的な項目から、虐待の問題、医療的ケア児とその家族への支援、疾患を抱えた子どもや障がい児のきょうだい(児) やヤングケアラーへの支援、等が含まれています。これらのほとんどは当センターの患者さんに関連する問題であります。今後、当センターはこれまでの医療提供だけではなく、「こどもまんなか」社会において子ども・若者のニーズにそった取り組みを行いたいと考えています。



副院長 鈴木 保宏

新型コロナウイルス感染症の発生直後には多くの方が「2-3か月待てば収束する」と考えていましたが、次第に「1年後ならコロナは収束する」と期待するようになりました。しかし、2022年には「コロナはもっと長く続くであろう」ことを悟りました。幸い、新型コロナ感染症によりWEB会議という新しい方法が急速に社会に普及しました。現在の医療において地域の医療連携ネットワークの構築は不可欠であります。“Withコロナ”の時代にこのWEB会議システムも時に活用し、皆さま方の協力を得てさらなる地域医療ネットワークを構築していきたいと考えています。



最後になりますが、今年も皆さま方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

メディカルクラークのご紹介

当センターでは「医師事務作業補助者」の呼称を「メディカルクラーク」としています。2008年度診療報酬改定で、医師の負担軽減や処遇改善を図るために医師事務作業補助者の体制を整えていることへの評価が加わり、全国的に配置されるようになりました。



当センターでは2008年度に4名からスタートしました。欧米では1920年代から活躍してきた歴史ある職種であるものの、日本では導入している病院が少なかったため、あまり知られていませんでした。その後、各診療科の意識も変わっていき、この職種への様々なニーズが業務として定着し、現在は小児内科系13名・小児外科系12名、周産期・中央11名の計36名で、全ての診療科を担当する大所帯となりました。

具体的な業務内容

- ◆ 外来診察室で診療記録・オーダーの代行入力
- ◆ 検査日・手術日案の作成、各種検査・処置オーダー
- ◆ 患者さんにお渡しする検査説明書や同意書の準備
- ◆ 患者さんから作成依頼のあった診断書や証明書の下書き
- ◆ 診療に関するデータ整理、各種統計・調査、カンファレンスの準備、救急医療情報システムなど行政上の業務の代行入力 など

医師の指示のもとに、常に最新の医療に触れ、専門的知識をスキルアップできる喜びを感じながら、さまざまな事務処理を行っています。



医師と看護スタッフ・医療専門職・事務スタッフ等、多くの職種との連絡調整を行い、チーム医療の一員として協働していけるよう、取り組んでいます。

医師のコメント

当センターのメディカルクラークは各診療科に配属され、それぞれの診療科のニーズに応じたサポートを担ってくれています。

外来診療においては診療記録やオーダーの代行入力、検査や次回予約の調整、電話診療で発行した処方箋の処理など、様々な場面で医師の業務を補っており、診療をスムーズに進めるために不可欠の存在となっています。また、膨大な量の診断書や指示書などの下書きを行うことによって医師の業務負担軽減に大きく貢献してくれています。 (MCワーキング長 恵谷 ゆり)



当センターにて母子健康手帳の交付が始まりました <和泉市連携>

和泉市との連携の一環として、当センターを受診された和泉市にお住まいの方は、妊娠確定後、当センター内で母子健康手帳を受け取ることができるようになりました。妊婦健康審査受診券は、当日より使用できます。



母子健康手帳の受け取り方法

- ① 当センター受診、初診問診票を記入
- ② 和泉市保健センターの保健師と面談
- ③ 母子健康手帳と妊婦健康審査受診券のお渡し

2022年10月～
毎週木曜日のみ

和泉市立総合医療センターと「地域医療における住民の健康と小児から成人医療に関する連携協定」を締結しました (2022年10月25日)

従前から和泉市立総合医療センターと当センターは、医療に関するさまざまな連携を行っておりますが、更なる地域医療の連携強化のため、協定を締結いたしました。

これにより、2023年1月4日から和泉市立総合医療センターの無料送迎バスを当センターの患者さんも利用いただけます。ホームページ等をご確認ください。



(左から) 和泉市立総合医療センター / 松下 晴彦 病院長
和泉市 / 辻 宏康 市長
大阪母子医療センター / 倉智 博久 総長

オミクロン株流行期に入院を要した小児 COVID-19 患者の臨床経過

第6、7波のオミクロン株を主体とした新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行では、小児患者の増加が顕著となり、当センターにおいても多くの患者を受け入れました。

COVID-19の診断で大阪母子医療センターに入院となった患者を対象として後方視的に調査した結果をホームページに公開しています。



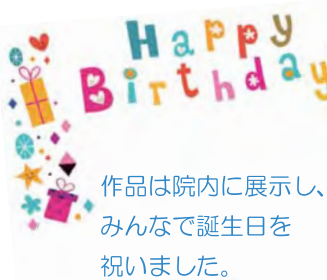
※第31回日本外来小児科学会年次集会（2022/8/27-28 福岡）で発表した内容を一部改変したものです。



モコニャン塗り絵大会、バースデー

**11月26日は当センターキャラクター
モコニャンのバースデーでした**

モコニャンの誕生日を祝うために、メッセージと塗り絵を募集し、患者さん、職員より心のこもったプレゼントがたくさん届きました。



作品は院内に展示し、みんなで誕生日を祝いました。



コロナ禍で、子どもたちにとって楽しいイベントが中止になる中、11月30日には久しぶりにモコニャンが登場し、子どもたちも大喜びでした。



大樹の会WEB 開催しました

新型コロナウイルス感染症の影響により「大樹の会 運動会」が中止となったので、昨年に引き続き、WEB 交流会として「大樹の会WEB」を開催しました。



「大樹の会」は出生体重 1500g 未満で新生児棟を退院された子どもたちとそのご家族が対象です。

2022年度は、ご家族からいただいた、お子様の成長した姿のご紹介に加え、育児に関する質問を募集し、医師が回答するコーナーを設けました。



また、スタッフによる運動会の様子を動画にまとめ、にぎやかに楽しいWEB 交流会となりました♪



地域連携アンケート結果



2022年9月に実施しました地域連携アンケートの結果をご報告します。ご協力ありがとうございました。皆さまからのご意見が良好な地域連携をすすめるうえでの改善のヒントとなります。今回の結果を受けて、患者支援センターではそれぞれの課題について検討してまいります。

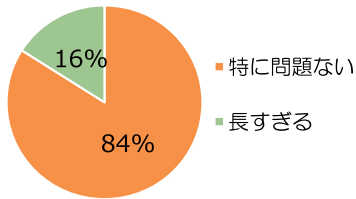
- ◆実施期間：2022年9月～10月
- ◆対象：医療連携登録施設および当センターへ患者さんを紹介くださっている医療機関 746施設
- ◆実施方法：アンケート用紙への記入およびWeb回答
- ◆回収数：80件(10.7%)



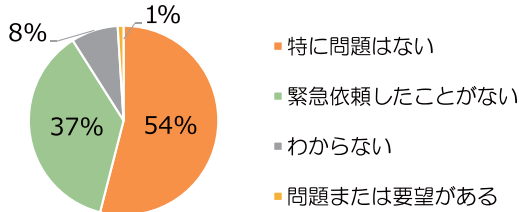
◀結果はこちらからご覧ください

アンケート回答の一部

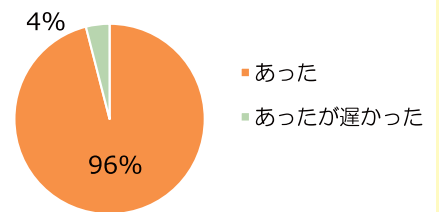
5.受診までの待機日数はいかがですか。



6.緊急時(外来、入院)の受け入れについて問題はありませんか。



7.当センターへご紹介くださった患者さんについての報告はありましたか。



今回は、「子どものこころの診療科」の待ち時間が長いとのご意見を多数いただきました。現在の診療体制についてご説明いたします。

子どものこころの診療科の初診予約の待ち時間が長くなっており、地域医療機関の先生方にはご迷惑をおかけし申し訳ありません。当科では、お客様の発達歴やご家族の状況などを含めた約1時間の予約を行った後に医師の診察を行っており、初診診察に要する時間は平均2時間以上となっております。このため、初診に確保できる枠数が決まっており、ご希望の患者さんをご案内するまでの時間が長くなっています。ただし、緊急性の高い患者さんについては、別途ご相談いただけますと、内容を確認させていただいた上で受診日の配慮はいたしますので、ご遠慮なくご相談ください。また、緊急性の高い患者さんへの対応も行いながら予約取得をしておりますため、初診申込を頂いた時点での初診予約日のご案内が出来ない場合も多くあります。この事情もご理解いただけますと幸いです。
(子どものこころの診療科 主任部長 小杉 恵)

ご意見箱から改善した事例紹介

患者さんから昨年いただきましたご提案のうち「検討中」とお答えしたご意見につきまして、以下のとおり改善いたしましたのでご報告します。

ご意見・ご要望

院内遊具に「あぶないよ」など書いてありますが、ひらがなが読めない小さな子にもわかりやすく、イラストでかいてくれると助かります。

回答

小さな子どもさんにもわかりやすいよう、イラストを使った掲示をしました。



交通のご案内



診察時間：平日 9時～17時30分
予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

【初診専用】 TEL：0725-56-9890 (直通)

FAX：0725-56-5605

【その他】 TEL：0725-55-3113 (直通)

FAX：0725-56-7785

【医師相談窓口】 E-mail：chiren@wch.opho.jp

医療者対象
ホットライン
(※24時間受付直通)

PICUホットライン
☎ 0725-56-1070

小児がん・白血病
ホットライン
☎ 0725-57-7677

心疾患ホットライン
☎ 0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望は FAXにて患者支援センターにお寄せください。